

# 今から ここから まなざし

糸魚川地区保護司会

第17号

## 世界ジオパークのまち 糸魚川



糸魚川ジオパーク  
マスコットキャラクター  
ジオまる



糸魚川ジオパーク  
マスコットキャラクター  
めーな

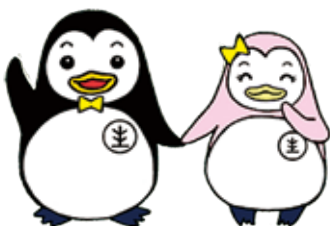
### 糸魚川市更生保護サポートセンターは “社会を明るくする運動”の拠点です。

### 地域に根ざした犯罪・非行予防活動を推進します。



#### 更生保護サポートセンターとは…

糸魚川市更生保護サポートセンターは、糸魚川地区保護司会が保護司の活動支援や地域連携を目的として、今年2月1日にビーチホールまがたま内に設置しました。



## 新たな活動へ

糸魚川地区保護司会

会長 上野 文嗣



発進式で呼びかけをする上野会長

本年は、更生保護制度が施行され70周年を迎える節目の年であり、また元号も平成から令和に変わり新たな時代がスタートいたしました。

糸魚川地区保護司会に於きましても、国の再犯防止推進計画に基づき糸魚川市の全面協力を得まして、更生保護活動、犯罪予防活動の新たな拠点としての「糸魚川市更生保護サポートセンター」を「ビーチホールまがたま」の一室に平成31年2月1日開設しました。4月12日には来賓に米田糸魚川市長、佐々木新潟保護観察所長、また関係機関、団体の皆様をお迎えし、会員と共に開所式の祝典を行う事が出来ましたこと、関係各位の皆様に感謝を申し上げます。

さて、7月は第69回“社会を明るくする運動”

の強調月間・再犯防止啓発月間であります。この運動は、すべての国民が犯罪防止と罪を犯した者の更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ犯罪のない明るい社会を築こうとする全国運動であります。期間中、保護司会は、この運動の主旨を市民の皆様にアピールすべく関係機関、団体と共に様々な活動を展開いたします。

また、本年より「学校との連携活動の活発化と一層の充実を図る」ことを保護司会の活動基本方針に定め、新たな活動を計画中であります。犯罪や非行のない誰もが暮らしやすい「安全で安心な地域」づくりのために市民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

## 犯罪ゼロを目指して!

糸魚川市更生保護サポートセンター長

池田 一雄

糸魚川市更生保護サポートセンターは、4月12日に多くの来賓のご臨席を賜り開所式をさせていただきました。



開所式であいさつをする池田センター長

更生保護サポートセンターは、保護司の処遇活動の支援や犯罪の防止活動を行う拠点として、法務省が平成20年から全国的に設置を推進し、全国886ヶ所保護司会のすべてに置くことを将来の目標としております。

新潟県では保護司会が21ヶ所あり、当センターは米田糸魚川市長をはじめ多くの皆様のご理解とご支援をいただき県内20番目に作られました。具体的には保護司による犯罪者の更生についての面接、生活環境調整に対する支援、犯罪や非行の防止活動、更生保護女性会、BBS会、協力雇用主会との連携強化及び情報提供などを担います。

お陰様で近年は犯罪件数も少なくなり、喜んでいるところですが、残念ながら全くのゼロと言える状況ではありません。人生の途中で道を踏み外す人を一人でもなくするため、サポートセンターの開所を契機に予防活動に力を注ぎ、安心・安全な糸魚川市を推し進めていきたいと思っておりますので市民の皆様のご支援ご協力をお願いいたします。

開所日 月曜日～金曜日  
9時30分～15時30分  
電話 025-552-7100



## フウセンカズラ高齢者見守り隊

元気印の会 会長 池田正夫

全国的に高齢化が進むなか、能生地域では、一人暮らしのお年寄りも多く、隣近所のつながりも弱まっていた。こんな状況を打破したいと考えた、地区町内会の有志により発足した「元気印の会」が、能生小学校の6年生に「フウセンカズラによる高齢者との交流」を提案。

児童からは「やってみたい」との意欲的な声があり、平成24年度から、「フウセンカズラ見守り隊大作戦」と名付けた、児童による高齢者の見守り活動がスタートした。

児童が学校で育てた「フウセンカズラ」の苗を高齢者宅に届けた上で、週1回、下校時に立ち寄り、共に苗の成長を見ながら何気ない会話をする。

児童と高齢者をつなぐフウセンカズラの花言葉は「永遠にあなたとともに」。高齢者は児童の活気をもらい、児童は地域の「大先輩」との会話を通じ、気遣いや優しさを知る。

5、6年生の2年間の高齢者との関わりを通じ、自然と地域への愛着が育まれていく。

フウセンカズラ見守り隊の活動は、5月下旬の種まきから始まり、苗が育った6月下旬には「発会式」が行われ、苗を届けて交流が始まる。

10月頃フウセンカズラ種が取れる頃には、フウセンカズラでの訪問は終了するが、それ以降も「お楽しみ交流会」や年賀状のやり取りなどの交流を深めている。



地域の大先輩とのふれあい



## 第69回“社会を明るくする運動”作文コンテスト作品募集

- 応募資格 糸魚川市内の小学生・中学生
- テーマ “日常生活で体験したことをもとに、犯罪や非行について考えたこと、感じたこと。”
- 原稿の枚数 400字詰め原稿用紙 3～5枚程度
- 応募先・締切 糸魚川地区保護司会事務局宛 令和元年9月6日(金)までに必着



### “社会を明るくする運動” 強調月間の主な活動

#### ❖「社明運動」発進式

7月1日 糸魚川市役所  
市長に内閣総理大臣メッセージ伝達

#### ❖学校との連携活動

あいさつ運動  
小・中学校、高校にリーフレット配布

#### ❖街頭PR

市内各所でPR用グッズ配布

#### ❖協力雇用主訪問

各企業にリーフレット配布

#### ❖懸垂幕・横断幕・のぼり旗の設置

市内各所に設置

#### ❖街宣活動

広報車による広報活動

糸魚川地区更生保護女性会は、次代を担う青少年の健全な育成のために、関係団体と活動を行っています。

### ❖ミニ集会実施日❖

地区	開催日・開始時間	会場
横町地区	7月3日(水) 18時30分	横町会館
大和川地区	7月3日(水) 19時	大和川地区公民館
押上・寺町・大町地区	7月5日(金) 19時	押上区公会堂
青海地区	7月9日(火) 9時	青海総合福祉会館ふれあい
浦本地区	7月11日(木) 19時	浦本地区公民館
能生地区	7月12日(金) 13時30分	能生生涯学習センター
一の宮・中央地区	7月12日(金) 13時30分	一の宮会館

# “社会を明るくする運動”の変遷 — 高度経済成長の光と影 —

本号では、昭和30年代から昭和50年代までの社明運動をご紹介します。

## NHK連続テレビ小説「なつぞら」

このドラマは、戦災孤児となった少女「なつ」が過酷な運命と向き合いながら成長して行く物語で、戦争の惨禍により巷に放り出された戦災孤児がいかに多かったことか。社明運動はこの孤児たちの救済を目的に始まった。(本紙15号で詳述)

## 「あゝ上野駅」の悲哀

昭和30年代中頃から40年代前半までは社明運動の第2期に区分される。

昭和39年、東京オリンピックが開催され高度経済成長に突入した。当時「あゝ上野駅」に歌われた中学卒業生は「金の卵」と称され工業化の担い手となる一方、職場や都会への適応に失敗し非行に走るケースも多かった。また第1次ベビーブーム世代の16、17歳の少年を中心とした傷害、暴行、恐喝、強姦等の粗暴犯が多発し大きな社会問題となった。

この時代の社明運動は、昭和37年に実施要項が全面改正され、青少年の非行防止、犯罪予防の取組を重点とし、国民がそれぞれの立場で力を合わせ、積極的に犯罪予防、青少年の非行防止に取り組むことが強調された。これにより中学生による座談会、青少年健全育成協議会等が結成され国民運動として展開された。



「あゝ上野駅」歌碑  
2003年上野駅不忍口に建立された



「…あの日ここから始まった」  
「金の卵」たちは、それぞれの就職先へと散っていった

## 若者たちの逸脱

昭和40年代中頃から昭和50年代中頃までは社明運動の第3期に区分される。

昭和50年代の石油ショックは、土地や株の投機による刹那的、快楽的な社会風潮を呈した。この時期、14、15歳の少年を中心とした万引き、自転車窃盗、原付車窃盗等遊び感覚の非行が増加した。全国の中学校では校内暴力が発生し社会問題となった。また高校進学率が90%を超え学習意欲を喪失したり、居場所を失ったりした生徒は中退して非行に走るケースも見られた。

この時代の社明運動は、地域における連帯感の喪失が社会問題となり始めたことから、地域社会の再組織化を図るため地域活動の促進に重点が置かれた。公開ケース研究会やミニ集会等が新たな手法として導入された時期でもあった。

## 今も昔も

記念誌「糸西更生保護のあゆみ～50年を顧みて～」を見ると、当時の保護司は「昭和53年頃は、中学生の校内暴力が社会的に大きな問題となっていた。私たち地域でも中学生の校内暴力が多発していた。この影響か私の最初の仕事は、少年の第1号観察を一度に3名おおせつかり…」と述べている。

更生保護に立ち向かう保護司の気概は今も昔も変わりません。

## 糸魚川地区保護司会名簿

### 糸魚川分区

菴澤 紹隆	上野 文嗣
岩崎 茂	小林 桂子
渡邊 せつ	松木 エツ子
小澤 義晃	山本 明美
清水 英基	吉原 喜久雄
牧江 由郎	藤田 英志
大瀬 信雄	金子 栄一
小柳 学	加藤 洋子
後藤 純悟	谷口 一之
大西 純	齋藤 隆一

### 能生分区

池田 一雄	五十嵐 須磨子
池亀 逸男	伊藤 一夫
中村 浩	大久保 利勝
久保田 一男	小林 忠
滝川 美和子	

### 青海分区

小野 敏明	安藤 都
渡邊 順哲	大津 康則
解良 則一	伊藤 きよえ

## 編集後記

法務省が主唱する第69回“社会を明るくする運動”が7月1日より1ヶ月間、全国一斉に開催されます。非行や犯罪のない明るい地域社会をめざす全国的な運動です。市民と各種関係団体との更なる連携が望まれます。

また、この春ビーチホールまがたまに保護司の活動拠点となる「更生保護サポートセンター」が開設されました。そして、その活動が安心安全な地域づくりの一助になればと願っております。(池亀)